

学校教育目標		豊かな心をはぐくみ 深く学び やり抜く子どもたちの育成					総合評価	
運営方針		子ども達が一日の学校生活を終えたとき、「学校に来てよかった」「今日は楽しかった」と言える毎日であってほしい。困難なことを乗り越えてやりとげたときには、ことさら大きな充実感が待っている。自ら行動する力、困難なことにもひるまず打ち克つ力を培い、協働して楽しい学級・学校づくりに励み、みんなと喜びを分かち合えるおもしろいやりのある学校づくりをめざす。					A	
令和元年度の成果と課題		本年度の重点目標		具体的目標				
○授業改善が進み、算数科を中心に主体的な学習ができつつある。 ●確かな読解力を育てる授業づくりに取り組み、児童の読解力を育てる。 ●進んであいさつできるようにする。またおもしろい行動ができる子を育てる。 ●話し合う活動を通して、自治的・主体的な活動に取り組ませる。		◎主体的に活動し、互いに認め合い、高め合える子どもの育成。		○「確かな読みの力」を育成することで、知識を場面に合わせて活用したり、情報を整理・処理し、条件に合わせて記述したりする力の育成を図る。				
		◎基本的な生活習慣や学習規律の確立。		○あいさつ・礼儀・時間励行などの規範意識や学習規律の向上に努める。				
		◎たくましい「体力」づくりの推進。		○様々な運動や遊びを奨励する。特に、持久力、投げる力、体幹を鍛えるための取組を進める。				
		◎地域と共にある学校づくりの推進。		○「地域から学ぶ」「地域を学ぶ」教育活動を進め、地域社会との連携を図る。				
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
学習指導	確かな読みの力の育成	国語科を中心に、「確かな読みの力」を育てる授業づくりに取り組み、児童の「知識を活用する力」、「情報を整理・処理する力」、「条件に合わせて記述する力」を育む。	A	A	A	全学年で研究授業を行い、国語科における授業作りや系統性について研修を深めた。これまでは説明文における授業作りについての研修が主だったので、今後は課題となっている力を授業の中でどのように高めていくか考えていく必要がある。	学力テストの結果などを活用し、課題となっている力を授業の中でどのように高めていくか話し合う。現在の状況の中でも、できる範囲で話し合い活動の機会を確保し、自分たちで解決する経験を積ませる。	それぞれの学年に応じて、工夫して授業をしていく。特に、若い先生を中心に、積極的にクロムブックを授業に取り入れるなど、子ども達の理解を深めたり、主体的な活動を促したりするの、ICTを効果的に取り入れることに驚いた。来年度は、クラスの数も増えるので、より効果的なICTの活用等、授業形態の工夫が必要であると思う。
	主体的な学び	自主的・主体的な態度を育てるために、日常的に話し合い活動を導入する。	A	A	A	新型コロナウイルスの影響もあり、話し合い活動が制限されているため、話し合う機会が例年ほど取ることができていない。その中でも授業や学級活動のなかでは、各学年で話し合い活動が行われている。		
人権教育	組織的な指導	人権集会などを行い、児童一人一人の人権が尊重される集団づくりを計画的に進める。	A	A	A	人権集会を計画的に行っている。エンカウンター活動を計画し、教員研修を行った。毎週月曜日をエンカウンターの日として設定し、各学級の学級作りの実践に役立っている。	エンカウンター活動は新しい活動例などがあれば紹介、研修などを行いたい。気になる子研修なども定期的に行い、実態把握を丁寧に行う。	エンカウンターを取り入れる等、統合を見据えた取組を進めて頂いていると感じている。統合後は、新しい環境に慣れずに不安に思う児童や保護者もいると思うので、引き続ききめ細やかな対応をしてもらいたい。
生徒指導	基本的な生活習慣の定着	あいさつ・礼儀・時間励行などの規範意識を高め、時間の励行については、100%を目指す。	B	A	A	時間励行の規範意識は高く、5分前行動がほぼ身につけている。挨拶は教師側から率先して行ったり、意義を話したりしているが、意識は低く、実行力は学年によるが、まだまだ足りない。	全校朝会や下校会でおりにふれて挨拶の意義や継続の大切さを啓発指導する。全校・各学級での生活目標の振り返り指導を深めていくことが大切である。	西吉野小学校の子ども達は、とても礼儀が正しく、私たちにもいつも気持ちよく接してくれると感じている。この文化をこれからも大切にしたい。また、統合への不安もあるが、同級生が増え、大勢の中で色々な人と出会い、色々な経験を積み重ねること、子ども達にとって大きなプラスであると思う。大人が心配する以上に、子ども達は、すぐに仲良くなれると思う。しかし、なかには、うまく順応できない子もいると思われるので、人数は多くなるが、引き続ききめ細やかな指導をお願いしたい。
		月ごとの生活目標の意識を高めるとともに、「トイレのスリッパ並べ」100%を目指す。	A			「トイレのスリッパ並べ」100%の意識は高く、ほとんどきれいに並べられている。生活目標は、全校朝会で劇化などによる啓発に努めるべきで、各学級でも達成できる取組が必要だ。		
	いじめ防止	自らの感情に気づき、互いのよいところを認め合える学級集団づくりを行う。	A	A	A	日々の児童の様子を細かく観察し、話を聞いたり、職員で話し合ったりして指導にあたっている。さらに相手の気持ちを思いやったり、相手の立場に立ったりする取組が必要だ。		
体力向上	体力の向上	毎日の運動習慣を身に付けさせ、体力・運動能力等調査結果の全国平均を目指す。	B	B	B	新型コロナウイルスのため、体力テストは実施されなかったが、休校期間中もHPIに自宅でできる運動を紹介した。しかし、例年課題になっている投げる運動に関わる体育の授業を実施できていない。	投げる運動に関わるように授業を計画し、さらに授業の導入で投げる運動に取り組む。	子ども達の体力が低下してきていると感じる。コロナ禍でのホームステイやバス通学であり歩かなくなったことも要因のひとつであると思う。今後は遊びを通じて、児童の体力が向上するように、様々なアイデアを出して取り組んで欲しい。
地域連携	幼小連携	異校種・異学年で相手意識をもち、互惠性のある交流を、どの学年でも行う。	A	A	A	NCC(西吉野チャレンジカップ)や文化鑑賞、車椅子ダンス講演会等、様々な行事を通して交流を図った。また、入学説明会を通して、新一年生が安心して学校に来られるように、人間関係の構築に努めた。	野外活動や修学旅行等を通じて、児童同士の交流を意図的に図ることができた。さらにスムーズに統合を迎えられるように、3小での調整を進めていく。五條中学校区を、基盤とした取組を進められるように、3小・1中での連携を深める。地域の人材や教材を活かせるように、各種団体、個人との連携を密にして、閉校式に向けての準備を進めていく。	幼小合同で西吉野チャレンジカップ(NCC)に取り組み、幼稚園児がお兄さんお姉さんの姿を見て、憧れたり、学んだりする姿が見られたと思う。また、コロナ禍の中でも、うまく地域との交流や経験を子ども達に積み重ねている様子をブログ等で拝見させてもらっている。今後とも、地域の教育力を子ども達の教育課程につないでいくことができるように、西吉野の良さを広めたり、地域のコミュニティを活用したりしていけるようにしてもらいたい。
		適正化を踏まえ、隣接校との合同研究授業や研修会、運営部会を計画的に行い、次年度の円滑な統合を目指す。	A			A		
	地域活用	地域の人材や教材を積極的に活用するとともに、地域の人々とのふれあいを図る。	A	A	A	ふるさとマップ制作の為、地域を訪れたり、情報を収集したりすることができている。また、ボランティアの方々による読み聞かせや学習支援、柿渋染め体験や森林教室などの取組を行い、児童の学習の基盤を形成している。		
今年度の成果と次年度への課題		[成果] ・国語科を中心に、教職員が協力して研修を深め、授業改善や教材研究に取り組んだ。説明文を中心に、「読み取る力」の育成に努めたり、新聞教育に力を入れたりして、児童の学力向上に寄与した。また、積極的にICT教育にも取り組むことができた。 ・コロナ禍においても、少人数ならではの良さを生かし、きめ細やかな対応をすることで、児童一人一人の課題に丁寧に向き合うことができた。そのため、なかま作りやいじめの防止にも役立ち、落ち着いた雰囲気の中で安心して学校生活を送ることができた。			[課題] ・コロナ禍において、十分に体育的な行事や活動に取り組む機会が減っている。児童の体力の低下や健康または安全・安心な学校生活を送るために、withコロナの視点を大切にしたい。 ・大きな声で気持ちの良い挨拶をすることに課題が見られる。引き続き、挨拶の大切さや意義について、学年に応じた指導をしていきたい。 ・QUやその他のアンケート結果などから、自尊感情の低さが本校児童の課題でもある。統合に向けて、集団の中で自分自身の考えをしっかりと持ち、周りの人とのコミュニケーションを深めたり、自信を持って自分自身を表現したりすることができるように、引き続きエンカウンター等に取り組んでいきたい。			